

令和3年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	3804	領域略称名	ネオ・セルフ
研究領域名	ネオ・セルフの生成・機能・構造		
領域代表者名 (所属等)	松本 満 徳島大学・先端酵素学研究所・教授		

(評価結果)

A－（研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの成果があったが、一部に遅れが認められた）

(評価結果の所見)

本研究領域では、免疫認識における従来のフレームワークである「セルフ」対「ノンセルフ」の識別機構を止揚する概念として「ネオ・セルフ」を提唱し、主に構造生物学的観点からその概念確立を目指して研究が進められた。

領域代表者の強いリーダーシップの下、結晶構造解析技術やイメージング技術などに強みを持つ研究者間の有機的な連携を通じて、主要組織適合複合体がT細胞受容体を強く活性化できる「ネオ・セルフ」となる状態の構造基盤を確立することができた。加えて、金属やスギ花粉アレルギーのメカニズム解析やマラリア原虫の免疫応答抑制機構など、独自性の高い優れた研究成果も生み出された。公募研究を中心に若手研究者を多く登用し、活発な研究が展開されたことも評価できる。

一方で、ネオ・セルフが生成され認識される仕組みの本質を説明するには更なる検討が必要である。今後は、「ネオ・セルフ」概念を基に免疫認識の原理原則を打ち立て、自己免疫疾患などの疾病発症に至る過程の解明へと、研究を大きく発展させることが期待される。